

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の指導力向上に向けた取組 平成28年度～平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～三重県～

生徒の英語力を高めるために、英語教育に携わる者の英語力・実践的指導力を高め、授業改善を図る。



高等学校

○課題解決のための具体的な対策



## (1) 具体的な取組内容

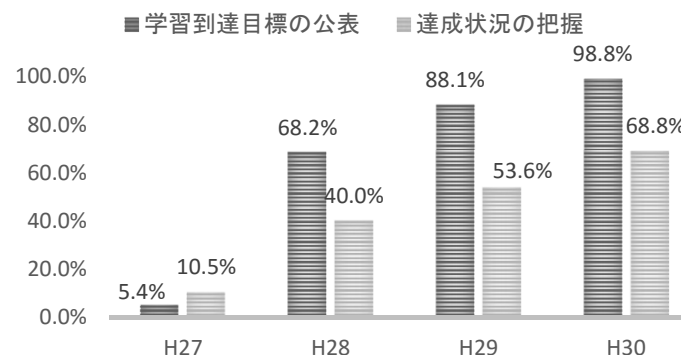
- ① 研修協力校として、H28年度は3校、H29年度は2校、H30年度は2校に依頼し、授業改善を進めている。
- ② H28年度から授業公開研修を実施している。小中高連携を図るため、参加対象者を全校種にするとともに、学識経験者(外部専門機関)の講義においても小中高の授業改善について話してもらっている。また、協議内容にも全校種で共通の視点を入れるようにしている。  
＜授業公開研修実施数＞  
H28年度: 高校4校 中学校1校      H29年度: 高校3校 中学校3校 小学校1校  
H30年度: 高校3校 中学校4校 小学校1校
- ③ H29年度から、各高校1名の悉皆研修として「外国語教育の充実を図るための研修会」を実施し、新学習指導要領の実施に向けて各校で取り組むべきことを周知している。
- ④ 英語教育推進リーダー中央研修の内容の普及を図り、英語指導力を向上させるための「英語教育推進研修」をH27年度から実施し、H31年度の5年間で、すべての高校教員が受講を完了する予定となっている。
- ⑤ 指導主事と研修主事で学校訪問をし、英語教育実施状況調査を基に、各校の英語教育の現状と、「英語教育改善プラン」について管理職と共通理解を図っている。

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の指導力向上に向けた取組 平成28年度～平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～三重県～

## (2) 成果と課題

＜英語教育実施状況調査の結果より＞（H30は暫定値）

①学習到達目標の公表を行っている学校は、H27:5.4%からH30:98.8%へ増えた。達成状況の把握についても、H27:10.5%から、H30:68.8%へ改善され、4技能の指導と評価の一体化に向け、授業改善が進められている。



②求められる英語力を有する生徒の割合については、H27:31.2%→H30:38.7%と微増ではあるが、外部試験を受験したことがある生徒数については、H30はH29より1200人以上増えており（H29:3117人→H30:4355人）、関心・意欲は高まっている。今後は、県内及び学校内で共通理解を図りながら、生徒の英語力を高めるための授業改善を加速させていく必要がある。

## (3) 成果の波及と周知について

①英語教育推進リーダーが集まり、互いの実践報告や成果と課題について話し合う機会を持っている。また、H28年度より、推進リーダーが県内各地域で授業公開研修会を開催し、中央研修の伝達を行うようになっている。

②H31年度に開催される「全英連三重大会」に向けて、オール三重で英語教育の改善に取り組み、その成果を発信する。

## (4) 課題解決のための手立て

学校での授業公開を伴う研修会の実施回数を増やし、各地域での研修を活性化する。授業公開の際には、指導主事・研修主事が各校に出向き、指導案検討に積極的にに関わり、各校の英語教育の推進を支援していく。

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の指導力向上に向けた取組 平成28年度～平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～三重県～

生徒の英語力を高めるために、英語教育に携わる者の英語力・実践的指導力を高め、授業改善を図る。

## 中学校

### (1) 具体的な取組内容

○課題解決のための具体的な対策

取 組	内 容 等
①平成29年度から、研修協力校として、中学校1校に依頼し、授業改善を進めている。	H29・H30: 松阪市立鎌田中学校。授業改善に取り組んでもらうとともに、公開研究会を実施した。
②平成28年度から、各中学校英語教員1名の悉皆研修を8月に実施している。(講師: 文教大学 阿野幸一教授)	H28: CAN-DOリストの意義と作成について H29: CAN-DOリストを活用した授業改善について H30: 英語で授業を行うことについて
③英語教育推進リーダー中央研修の内容の普及を図り、英語指導力を向上させるための「英語教育推進研修」を平成27年度から実施し、平成31年度の5年間で、すべての中学校教員が受講を完了する予定となっている。	完了者数 H27: 79人、H28: 89人、H29: 95人、H30: 87人
④平成29年度から県内29市町を15地域程度に分け、地域別研修を実施している。県の指導主事等も参加し、市町教育委員会の指導主事等を支援するとともに、授業改善の方向について指導助言を行っている。	形式は、講義や公開授業、協議など 講師は外部専門機関や県・市の指導主事、英語教育推進リーダーなど
⑤平成30年度、授業改善に向けて共通理解を図るため、「中学校英語授業で大切にしたいポイント」を書いた資料を作成し、様々な研修会等において、英語教員に配布している。	「英語授業の半分以上を英語で行う」 「パフォーマンステストを学期に1回以上」 「目的・場面・状況を明確にした言語活動の実施」
⑥平成28年度から授業公開研修を実施している。小中高の連携も図るため、参加対象者を全校種にするとともに、学識経験者(外部専門機関)の講義においても小中高の英語授業改善について話してもらっている。また、協議内容にも全校種で共通の視点を入れるようにしている。	H28: 中学校1校 高等学校4校 H29: 中学校3校 高等学校3校 小学校1校 H30: 中学校4校 高等学校3校 小学校1校
⑦最新の情報を共有するため、平成28年度より、英語に特化して、市町等教育委員会等の指導主事等を対象とした担当者会・研修会を実施している。	H28: 1回(CAN-DOリストの意義や作成) H29: 3回(国の情報伝達、評価、スピーキングテスト) H30: 1回(国の情報伝達)

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の指導力向上に向けた取組 平成28年度～平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～三重県～

## (2) 成果と課題

- ・新学習指導要領に基づいた授業改善について、様々な研修をとおして共通理解が図られてきている。
- ・英語教育実施状況調査の結果(H30は暫定値)

	H27	H30
求められる英語力を有する英語担当教員の割合	32.0%	34.6%
求められる英語力のある生徒の割合	31.4%	36.7%
CAN-DOリスト	設定	100%
	公表	9.0%
達成状況の把握	11.0%	30.3%
生徒の授業における言語活動時間の割合	64.7%	69.5%
スピーキングテストの回数	2.2回	2.9回
ライティングテストの回数	1.2回	1.7回
英語担当教員の授業における英語使用状況	44.7%	70.3%

### ＜英語教育実施状況調査について＞

- ・県全体として改善方向に進んでおり、特に、「英語担当教員の授業における英語使用状況」が大きく改善された。
- ・CAN-DOリストの「公表」と「把握」は、改善傾向にあるものの、伸び悩んでいる。パフォーマンステストも含め、リストを活用した指導と評価の在り方について、研修を実施する必要がある。
- ・言語活動時間についても改善はみられるが、さらに割合を高めるために、研修を通して認識を高め、「目的」「場面」「状況」を明らかにした言語活動が行えるようにする必要がある。
- ・数値として量的に改善された項目も、質を高めていく必要がある。
- ・生徒の英語使用を増やすために、英語教員の英語力を高めていく必要がある。

## (3) 成果の波及と周知について

- ・公開研究会を実施し、授業をとおして改善方法や方向を理解・実践につなげてもらう。
- ・授業改善の参考となる指導案を、優良事例として配布する。

## (4) 課題解決のための手立て

- ・授業改善に、授業公開研修が有効であると考えますが、指導案検討から県や市の指導主事等が十分に関わることができるよう、体制を作っていく。
- ・英語教育実施状況調査において、課題となった部分に焦点を当てた研修内容としていく。
- ・テストの持ちよりや、パフォーマンステストのあり方など、評価の研修を実施する。
- ・県内において、地域により取組に差がみられるため、状況に応じた市町支援に取り組む。
- ・平成31年度に「全英連三重大会」が実施されるため、これを好機ととらえ、校種を超えた授業改善の取組をさらに進めていく。

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の指導力向上に向けた取組

## 平成28年度～平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～三重県～

児童の英語力を高めるために、英語教育に携わる者の英語力・実践的指導力を高め、授業改善を図る。

### 小学校

○課題解決のための具体的な対策

#### (1) 具体的な取組内容

取 組	内 容 等
①平成29年度より、研修協力校として、各年度小学校1校に依頼、校内研修を中心に授業改善を進めている。 H29: 松阪市立第四小学校 H30: 松阪市立第一小学校	H29: 校内研修を中心とし、指導案検討や授業参観、事後協議、教材・教具作成、また先進校視察などを行った。 H30: 校内研修を中心とし、指導案検討や授業参観、事後協議、教材教具作成、先進校視察などを行うとともに、11月に公開研究会を開催した。
②英語教育推進リーダー中央研修の内容の普及を図り、英語指導力を向上させるための「英語教育推進研修」を平成27年度から実施している。	H27～H29年度: すべての小学校の中核教員に対する研修が完了した。 H30～H31年度: 小学校の新任教諭に対して全員悉皆で実施している。
③平成29年度から県内29市町を16地域に分け、「小学校英語ブロック別研修」を実施している。	H29: 14機関14講座 H30: 13機関15講座
④平成29年度に、「小学校外国語教育の早期化・教科化に向けた研修会」として、調査官を招聘し、県内全小学校から1名参加の悉皆研修を実施した。	新学習指導要領における外国語教育について 新教材について 移行措置期間の指導のあり方について 等
⑤平成29年度から、県の指導主事や研修主事が講師となり、小学校英語出前研修を実施している。	研修ガイドブックを用いて、新学習指導要領の内容伝達や、授業改善のポイント、模擬授業などを行っている。 H29: 16市町 H30: 7市町
⑥平成28年度から授業公開研修を実施している。小中高の連携も図るため、参加対象者を全校種にするとともに、学識経験者(外部専門機関)の講義においても小中高の英語授業改善について話してもらうよう依頼している。なお、平成29年度からは、小学校でも授業公開研修を実施している。また、協議内容にも全校種で共通の視点を入れるようにしている。	H28: 中学校1校 高等学校4校 H29: 小学校1校 中学校3校 高等学校3校 H30: 小学校1校 中学校4校 高等学校3校

**「英語教育改善プラン」に基づいた教員の指導力向上に向けた取組**  
**平成28年度～平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～三重県～**

**小学校**

取組	内容等
⑦最新の情報を共有するため、平成29年度より、英語に特化して、市町等教育委員会等の指導主事等を対象とした担当者会を実施している。	H29:3回(国の情報伝達、研修ガイドブックを用いた研修、各市町教委の情報交換。) H30:1回(国の情報伝達、各市町教委の情報交換。)
⑧平成29年度より、「小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習」として、三重大学と連携し、小学校教員に中学校教諭2種免許状(外国語(英語))の取得する講習を実施している。	受講者:30人 平成31年度までの3年間で完了予定。
⑨平成30年度「三重の英語教育加速事業」を実施している。	発達段階に応じた英語指導法の研究・開発を行う。県内3地域の小学校5校をモデル校に指定して、大学教授や指導主事等による継続指導及び、公開授業研究会を行う。

**(2) 成果と課題**

- ・各市町ごとに、移行期間の実施内容等を決めて、取組を進めている。
- ・様々な場面で、新学習指導要領に基づいた小学校外国語教育の在り方について周知を図った結果、共通理解が深まった。一方で、これまでの外国語活動への取組の相違が、指導の差となって表れている。
- ・中学校の外国語科の授業のイメージを、そのまま小学校の外国語科の授業に当てはめてしまう場合がある。
- ・評価の在り方について、研修を進める必要がある。

**(3) 成果の波及と周知について**

- ・実践研究の成果を、公開授業をとおして発信するとともに、指導事例等を全小学校に配付する。

**(4) 課題解決のための手立て**

- ・地域により取組に差がみられるため、状況に応じた市町支援に取り組む。
- ・公開授業研究会を引き続き実施し、授業に基づいた研修を行うことで、特に小学校外国語科としての授業改善を促進する。
- ・評価に係る研修を実施する。

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」

～松阪市立第一小学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

＜現状の課題＞学校全体で英語授業の方向性や授業方法などの共有が図れていない。

＜課題解決のための手立て＞校内研修を計画的に実施することで、学校全体で英語の指導法等の研修を進める。

## 具体の取組の内容

- ①英語教育で大切にしたい5つの約束(「よく聴く」「大きな声で」「目をみて」「笑顔で」「使おう話しかけよう)」を決定する。
- ②年間計画を作成する。
- ③指導案(デザインシート)検討を全員で行う。
- ④めあてとふり返りを位置づけ、ふり返りシートを作成する。
- ⑤授業の進め方について共通理解を図る。
- ⑥効果的なALT等の活用方法を検証する。
- ⑦生活科や外国語活動で、全学年が年1回の提案授業を行う。  
11月には公開授業研究会を実施する。
- ⑧先進校を視察し、校内で還流報告をする。
- ⑨大学教授を講師として招き、指導力向上を図る。
- ⑩評価のあり方について考える。
- ⑪子どもを英語に慣れ親しませるため、掲示物の工夫などの取組をする。
- ⑫教材・教具を作成する。

## 成果

- ・校内研修を14回、先進校視察を3回、校外研修会への参加を2回行い、英語教育の方向性をつかむことができた。
- ・文教大学の阿野幸一教授を招聘し公開授業研究会を行った。小学校教員 53名、中学校教員 5名、高校教員 1名が参加し、小中高の連携も意識した授業研究をすることができた。
- ・学校全体で、英語のあふれる環境づくりを進めることができた。
- ・英語教育で大切にしたい5つの約束を、全教職員、全児童で共有することができた。
- ・クラスルームイングリッシュを使い、英語を使って表現する場面を多くすることができた。
- ・研究を進めるなかで、教員自身の英語に対するコンプレックスや指導への不安感が小さくなった。
- ・どの学級でも、子どもたちが意欲的に英語をたくさん使っていた。休み時間にも英語に慣れ親しむ姿が見られた。
- ・ふり返りシートにより、子どもは自分を客観的にふり返り、教員は次時の授業に活かした。
- ・英語パスポートを作成し活用することで、英語に親しんだり、ALT等と話す時間をつくることができた。
- ・多くの児童が自主的に英語スピーチコンテストに参加した。
- ・英語教育への保護者の関心が高まった。

## 今後の課題・方向性

子どもたちの英語コミュニケーション能力を育むための授業改善に向けて

- ・学習到達目標を明らかにしたCAN-DOリスト(小学校版)を作成していく。
- ・学校全体で、授業方法の一層の共有を図っていく。
- ・練習にとどまらず、言葉で意味のあるやり取りができる言語活動を工夫していく。
- ・外国語科の指導改善に向けて「書くこと」について、指導の研修を進める。
- ・ALT等の効果的な活用方法について、検証を続ける。
- ・円滑な接続をめざし、中学校との連携を図っていく。

# 平成29～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～松阪市立鎌田中学校・三重県立松阪商業高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

現状の課題:「英語で行う英語の授業」は行っているものの、生徒の言語活動及び、生徒の英語の発話が十分でない。  
課題解決のための手立て:「4技能の統合的な指導」や「生徒の英語での発信場面を適切に設定する指導」について教科会を中心に研修を進める。

## 具体の取組の内容

- ①中学校、高等学校ともに、生徒の「発信力の向上」のため、授業で「自分で考えて英語を話す機会」を増やす。中学校では、全学年で picture describing や retelling を行う。また「話す活動」と関連づけた「書く活動」を行う。高等学校では、定期テストのwriting問題も含め、パフォーマンステストの実施回数を増やす。
- ②生徒の英語力の変容を把握する方策として、中学校の2・3年生に対し、英検IBAを実施する。
- ③平成29年度と同様、文教大学の阿野幸一教授から継続的な指導を受け、授業改善を進める。
- ④研修協力校として、公開研修会を実施する(鎌田中学校11月19日、松阪商業高校11月5日)。研修会には互いに参加し、「授業における教員の英語使用」「言語活動」など、共通の視点で協議を行う。同時に、地域における校種間連携を進める。



## 成果

- ・中学校では、生徒が英語で話そうとする姿がよく見られるようになった。流暢さという点で、一定の成果が得られたと考える。また、「書く活動」において、生徒の書く機会を増やすとともに、指導法を工夫した。
- ・中学校では、「言語活動」「パフォーマンステストの実施」「教員の英語使用」を、教員が意識して改善した結果、生徒の英語力向上につながった。
- ・高等学校では、ライティングにおいて、生徒が書く英文の量が増えてきた。また、即興的に自己表現できる生徒が増加した。
- ・公開研修会では、同じ大学教授からの指導助言により、小中高の英語教育の関連性がよくわかり、今後の英語指導の一貫性につながる機会となった。
- ・中学校の公開研修会には、松阪市内の中学校英語教員各1名以上の参加とし、研修内容の普及に努めた結果、松阪市の英語教育実施状況調査で、「言語活動の割合」「パフォーマンステストの回数」「教員の英語使用状況」が改善され、「求められる英語力の生徒(CEFR A1レベル相当以上)」の割合が増えた。

## 今後の課題・方向性

- ・中学校では、「話す力」の育成に向け、引き続き、英語で話す機会を保障するとともに、正確性も高める指導を進めていく。また、「書く力」の育成については、指導法についてさらに研修を深める。
- ・中学校では、指導と評価の一体化を進めるため、評価方法について教科会でさらに研修を進める。
- ・高等学校では、表現の正確性をより高めるため、校内で、指導・評価について話し合う時間を定期的に確保し、発信力の質の向上につながる授業改善を進めていく。



# 平成28～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～三重県立神戸高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・リーディング力、リスニング力のための育成に偏重しがちな授業を改善する。
- ・英語の4技能を伸ばすための指導と評価を実施する。



## 具体の取組の内容

- ①スピーキング・ライティングのためのパフォーマンステストを導入し、英語での発信技能を伸ばす。  
(年3回のスピーキングテストの実施・年5回の定期試験にエッセイライティングを出題)
- ②プレゼンテーション大会や、外国人講師による英語の講演会を実施し、実践的な英語を使う機会を設ける。  
(英語での質疑応答の時間を設け、聴衆も積極的に参加できる時間を設けている)
- ③外部試験を取り入れて英語運用能力の現状を把握し、4技能能力向上のための指導を行う。
- ④外部専門機関から講師を招いて教員研修会を実施し、授業改善を図る。
- ⑤2019年1月に、外部講師を招いて公開授業・教員研修会を実施予定。

## 今後の課題・方向性

- ・本校生の実情にあったCAN-DOリストを作成するために、毎年見直しをし、それを授業で活用できるように教員間での共通理解を深める。
- ・高校3年間を見据えた外部検定試験の受験と結果の分析を行い、大学受験において生徒が不利益を被らないように指導をする。
- ・授業での指導方法や評価について教員間で共通理解・情報共有を深め、学校全体の英語授業改善に取り組む。
- ・2年生以降での英語ディベート・ディスカッション等の活動に取り組み、生徒の思考力・表現力の育成を図る。

## 成果①

パフォーマンステストによって評価されるため、生徒の「話す」「書く」力への意識の高さが、試験後のアンケートから明らかになった。試験時に使用するルーブリックを改訂し、教員間で評価の共通を図った(別紙①)。

また、プレゼンテーション大会や外部講師の講演会を通して、生徒の積極的に英語を使おうとする態度がよく見られるようになった。特に、「相手に伝わるように話すことが大事」、「間違いを恐れなことが大切」、「自信を持って胸をはって話すことが必要」といった感想が多かった。

## 成果②

平成30年度1年生(現1年生)のGTECのテスト結果を見ると、平成29年度1年生(現2年生)・平成28年度1年生(現3年生)のライティングスコアと比べて高いスコアが出た。

今年度の6月時点での結果で、すでにライティングスコアの上昇が見られるので、12月時点での他技能の向上が期待できると考えている。

	今回		前年度生		前々年度生	
実施時期	2018年6月		2017年12月		2016年12月	
試験番号	33B		33B		31B	
	人数	スコア	人数	スコア	人数	スコア
Reading	319	144.7	318	149.9	318	152.7
Listening	319	142.6	318	148.7	318	156.9
Writing	319	115.4	318	108.5	318	114.1

# 本校で使用したルーブリック 第2回スピーキングテスト用

## Lesson 5 Evaluation

合格点 9点 / 15点

## 内容

grade	score	
A	5	教科書の内容を正確に伝え、量も充分である。 教科書本文にない語彙や文法も使用している。
B	3	教科書の内容の60%以上を伝えている。 ほぼ正確な文法を使用している。
C	0	伝えている内容は教科書の内容の60%未満である。 話している英語の文法が破綻していることが多い。

## 発表

## 1. 聞き手を意識し、また本文の内容を自分のものになっているか

grade	score	
A	5	聞き手を見て話し、感情を込めている。意味のまとまりで ポーズをとっている。適度なジェスチャーがある。
B	3	聞き手を見て話している。
C	0	原稿を見てしまう。発表時間内に発表できない。 聞き手を見て話すことが少ない

## 2. 聞き手とのやりとり

grade	score	
A	5	質問をし、返ってきた答えに対してさらに相づちや繰り返しなどの自然な反応をしている。
B	3	質問することができた。
C	0	質問することができなかった。